

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102412		
法人名	医療法人敬天会		
事業所名	グループホーム 野の実 (北ユニット)		
所在地	〒859-0417 長崎県諫早市多良見町舟津299番地6		
自己評価作成日	平成21年12月7日	評価結果市町村受理日	平成22年3月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成22年1月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

大村湾を一望出来る自然豊かな環境の中で、四季の移ろいを肌で感じながら、ゆったりと暮らしていただいている。  
 ご利用者の笑顔と笑いを大切にしながら、一人ひとりの意思を尊重したケアを行っている。  
 散歩・買い物・外食・一泊旅行と外出する機会を多く設け、生活の中に楽しみを持ってもらっている。  
 毎年小学校の運動会や地域の夏祭りには参加し、今年は小学校の授業参観に出向き、ご利用者が心を込めて作ったぞうさんを贈り、喜んでもらった。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

諫早市多良見町・伊木力みかんの里に立地されたグループホーム野の実は、ホームにいながらにして大村湾を眺めることができ、静かな波の音、船の汽笛を聞くことができる自然豊かな恵まれた環境の中にある。ホームの建物は木がふんだんに使われており、薪ストーブや無垢材の家具などが訪れるものを、自然と癒してくれる。母体は歯科医院で往診の際に施設を訪問したのをきっかけに、自らホームを立ち上げられた。開設5年目を迎え、職員のチームワークも良くなっており、明るく、笑顔がみられる職員が自慢である。今年度は初めてホームでの看取りを行い、さまざまな課題もうまれたが、たくさんの学びもあったという。今後も、「気ばり・心ばり・目くばり」で更なる質の向上が期待できるホームである。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちはあなたがあなたらしくいつまでもそしていついかなる時も心豊かに暮らせるように寄り添っています」という理念を掲げ、地域の中でその人らしく暮らせるよう支援している。また、理念を職員で共有しながら日々のサービスに取り組んでいる。	理念を職員だけでなく、利用者、家族等に対してもわかりやすく、より浸透をはかるため、数年前に検討され、変更されている。理念に掲げられているように、業務中心ではなく、「その人の生活を支える」ことが重視され、「気くばり・心くばり・目くばり」を心がけた支援が行われている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、近隣の小学校の授業参観、運動会、地域の夏祭り、清掃活動、みかん収穫祭など毎年参加している。	自治会に加入され、回覧板がホームにも届き、諫早市の市報などを見られる利用者もいる。また、近隣の小学校との交流が盛んで、行事や学習発表会への参加の声かけで、授業参観に出向いたお礼として、利用者手作りの雑巾を寄贈された事例もある。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症に関する話を盛り込んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2カ月に1度開催し、利用者の状況、日々の活動内容、外部評価の結果を報告し、参加者からの意見をサービスの質の向上につなげるよう努めている。	偶数月の第3火曜日に運営推進会議は行われ、諫早市職員、多良見支所職員、家族等の参加があるが、地域の方(自治会長、民生委員)は農繁期のため、欠席される時期もある。内容としては、ホームからの報告や、日頃の様子を知ってもらうため、生活の様子が録画されたDVDを見てもらうこともある。	参加への声かけは行われているが、より地域に開かれたホームにしていくためにも、再度参加者の選定を検討されるとともに、内容の充実(改善課題の話し合い、災害時の協力の呼びかけ等)に期待したい。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上分からないことや疑問点など相談し、スムーズな運営につながるよう取り組んでいる。	今年度は、介護保険の認定方法の改定があったため、諫早市本所より、担当の保健師が説明にこられた。日頃より、相談ごとがあった場合は、直接出向いたり、電話で問い合わせを行っている。また、諫早市のグループホーム連絡協議会に加入している。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中施錠せず、自由に入出入りできるようにしている。利用者が外出した場合は出来るだけ気持ちよく送り出し一緒に行動している。	身体拘束排除のためのマニュアルが整備されており、来月は研修としてシンポジウムに職員が参加予定である。帰宅願望がみられる利用者に対しては、職員付き添いでホーム周辺を一緒に歩いてみるなど拘束しない支援が窺える。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より言葉かけにも注意を払い、不適切なケアをした時は、話し合いをしている。また、職員同士うまくコミュニケーションをとる事により、ストレスを抱えないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、制度について勉強する機会を設けたが、活用するまでには至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書および契約書により、十分説明を行い、理解していただいた上で契約している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の面会時、職員に気軽に話が出来よう雰囲気づくりに留意し、声かけする機会を多く持つようにしている。意見や要望があった場合は、話し合いを行い運営に反映させている。	玄関に意見箱の設置をしているが、現在までに投函はない。利用者・家族ともに、なにか要望があれば、直接伺うことが多い。職員より「接遇」についてのアンケートの実施をしてはどうかとの意見があり、現在検討中である。	ホームが現在の状況で取り組めることで、アンケートの実施もあるが、まずは便り等で、意見をいつでも伺う姿勢の表出と、もし意見があがればそれまでの取り組みを知って頂き、気軽に話して頂く環境づくりが望まれる。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを図り、意見を聞く機会を多く持っている。	一日2回申し送りを実施し、職員間での情報交換の場としている。個別で話せる機会づくりとして、皆で食事を開いたり日常業務での休息を得られることで、現在は離職も少なくなっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行っている。また、管理者や職員の努力や実績を把握し、やりがいや向上心をもてる職場環境作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の育成のため、定期的に機会を設け参加を促し研修できる体制を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会に所属し、研修会や勉強会、ポーリング大会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴する姿勢をもち、話しやすい環境をつくり、ゆっくり聴き、本人の思いや不安を受け止めるようにしている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをゆっくり十分に聞き、共感・共有することにより、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族と十分に話し合い、それぞれの利用者にあったサービスの見極めをし、可能な限り柔軟な対応を行う。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、料理・生け花・漬物の漬け方・編み物など多くを教えてもらう場を持っている。職員の元気のない時は励まして下さり、時には相談にのってもらったりする。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には利用者の日常の様子や出来事、気づきを伝え、常に情報を共有している。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話連絡したり、面会の際、気兼ねなく出向いてもらえるよう声がけしている。2ヶ月に1度馴染みの美容師さんが訪問美容に来られる。	家族の希望もあり、ホーム内で携帯電話を使用している利用者もみられる。そのほかにも、墓参りに行ったり、以前よく行っていた浜の町アーケードへの外出などこれまでの生活の継続支援が行われている。また、年賀状や手紙のやりとりも行われている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格を良く理解し、相性を見ながら席の配置を工夫したり、レクリエーション・料理作り等職員が間に入り利用者同士の関係がうまくいくよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた場合、アセスメントや介護サマリー等を渡し、情報交換を行い、職員が機会を作り訪問に行くなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのかかわりを多く持つことで、そのかたの思いを言葉や表情でくみとり、希望意向の把握に努めている。	「家に帰りたい」と言われる方に対しては、なるべく外出の機会をつくり、ホーム内での楽しみごとを増やす工夫をされている。意向の表出が困難な方に対しては、家族へ聴取する方法もとられている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの話やご家族からの情報を収集し、把握に努めている。センター方式を取り入れた情報シートで把握できるようにし、職員で共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを理解し、出来ることに注目し、その人の全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で常に情報を共有し、本人、ご家族と話し合い、介護計画に反映させている。	センター方式を活用されている。受け持ちの職員がアセスメントを行い、前もって家族から聴取した内容を加味して、カンファレンスを開催している。基本的に、見直しは3ヶ月に1回(今後は半年に1回も検討)であるが、必要時は行われる。モニタリングは毎月実施されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別日誌に記録し、申し送りや伝言ノートにより情報を早目に共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議に民生委員に参加してもらい、意見交換する機会を設けている。また、小学校の運動会、学習発表会に参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回往診があり、状況を把握してもらっており、緊急時にも対応できる体制をとっている。往診以外でもリハビリや外来といった医療機関を利用し支援している。	協力医の紹介で入居となるケースが多く、入居前とかかりつけ医は変わらないことが多い。2ヶ所の協力医の往診と訪問看護師の健康チェックが週に1回行われ、家族の安心にも繋がっている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師、訪問看護師と健康管理について相談や情報提供を行い、適切な受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療できるよう、利用者の情報を報告し時間を見つけ職員が見舞うようにしている。病院の医療連携室と連絡を密にし、早期退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期に向けた方針については、入所時に説明している。主治医、訪問看護、ご家族と十分話し合いながら取り組んでいる。	今年度は初めてホームでの看取りが行われた。利用者一人一人の状況が異なる中で、課題も多かったが、職員の大きな学びとなった。その後、他の家族より、「看取りを行ってほしい」という要望も聞かれ、今後はさらに研修や職員間での話し合いを重ね、できる限りのニーズに応える意向である。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、実施している。AED救命講習会に参加している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団と連携を図り避難訓練を行っている。非常時の備品についても少しずつ準備している。	昨年は、消防署立会いの下、消防団の協力が加わった訓練とホーム独自での訓練が実施された。夜間を想定した訓練では職員一人が実際シートを使用し9名(職員で実施)を避難させるものが行われた。備蓄については、現在検討中であるとのこと。(食料やカセットコンロ等は準備済み)	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩に対する礼儀を忘れないよう心がけている。声のトーン、大きさに配慮し、特に排泄時の言葉かけには注意を払っている。	「ちょっと待って」「ダメダメ」など、つい出てしまうこともあり、気づいた時に職員同士で指摘し合うようにしている。プライバシーへの配慮が必要な入浴介助や排泄介助の面では、表情や行動を読み取り、さりげない声かけが行われている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけを行い、思いや希望を表せるよう、また意思表示が出来ない場合は、表情や反応を注意深く観察し、自己決定が出来る場面作りに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、利用者の体調、感情を考慮しながら、出来る限りその方のペースに合わせて対応し支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師さんに来訪してもらい、好みの髪型にカットしてもらっている。整容の乱れ・汚れ等に対しさりげなくカバーしている。買い物時、自分で洋服を選んだり、化粧品を購入するなど個人の要望に応じている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、野菜きざみ、料理の盛り付け、後片付け、茶碗洗い、拭き等利用者と一緒に行っている。	利用者と職員による手作りの食材(甘酒や粕漬け、ゆず茶など)の取り入れ、郷土料理(浦上そば)を皆で召し上がるなど、温かい家庭の味を大切にしている。できる範囲で、調理の下ごしらえにも参加してもらい残存能力を活かした支援を行っている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を摂ってもらい、食事摂取量を記録している。個々に合わせ、刻んだり、とろみをつけたり工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。歯科との連携もあり口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、それぞれの排泄パターンを把握し、さりげなく声かけし支援している。表情などのサインを見逃さないよう努めている。	本人・家族の希望もあり、なるべくオムツに頼らない排泄の支援が行われている。例えば、車椅子使用の方でも誘導の工夫をし、トイレでの排泄を実施している。夜間はポータブルトイレ使用の方もいるが、必要時はセンサーマットを使用し、安全面への配慮も窺える。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、水分補給をこまめに行っている。散歩や体操など体を動かしてもらい自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者のタイミングに合わせて、ゆっくり入ってもらっている。曜日は決まっているが希望があればいつでも入浴出来る。	オーシャンビューで檜風呂でもあり、利用者にも大変好評で、つい長風呂になられる方もいる。週に3回を入浴日の基本としているが、失禁時など必要時は適宜可能である。ゆず湯や菖蒲湯など楽しめる工夫もなされている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動を促し、生活リズムを整え、夜間は良く眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんをケースに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。職員は薬の本で薬について理解している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味を良く把握し、その人の能力に応じた役割を決め、自信や喜びを感じてもらえるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ散歩したり、ドライブや買い物へ出かけ、気分転換を行っている。月に1回は昼食も兼ね、遠出の外出(花見、買い物)をしている。	日常的に散歩を行い、なるべく外出の機会が多くなるように心がけている。外出できない日でも、暖かい日は広いデッキに椅子を並べ、日光浴も可能である。ホーム周囲の環境は自然豊かで、今後は散歩道も整備される予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望に応じてお金を所持してもらい、買い物時、本人が支払っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、電話や手紙が出せるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の目に止まる位置には季節の花を飾り、季節行事に関連した物を一緒に飾るなど、季節の変化を楽しめるようにしている。	ホームのあちこちに無垢材がふんだんに使われ、廊下には長椅子が数箇所設けられている。共有の部屋には暖かい薪ストーブを囲みながら語らいができる場所もあり、落ち着いて過ごせる環境がある。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキでは、ゆっくり海や山を眺めることが出来る。ベンチや椅子、縁側が多くあり、思い思いにくつろげるようになっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、道具、仏壇、飾り物などを持ってきてもらっている。居室には季節の花を飾っている。	海を眺め、日当たりが良い部屋は明るく、大自然が居室にいながらも癒してくれる。一部、畳の間を設けたフローリングの部屋もあり、起居動作が困難な利用者にとっても心地よく過ごせるものになっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に合わせ、その都度応じている。手すりの設置、ポータブルの設置など。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4271102412		
法人名	医療法人 敬天会		
事業所名	グループホーム 野の実(南ユニット)		
所在地	〒859-0417 長崎県諫早市多良見町舟津299番地6		
自己評価作成日	平成21年12月7日	評価結果市町村受理日	平成22年3月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階
訪問調査日	平成22年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目		取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちはあなたがあなたらしくいつまでも、そしていついかなる時も、心豊かに暮らせるように寄り添っています」という理念を掲げ、地域の中でその人らしく暮らせるよう支援している。また、理念を職員で共有しながら日々のサービスに取り組んでいる。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、近隣の小学校の授業参観、運動会、地域の夏祭り、清掃活動、みかん収穫祭など毎年参加している。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症に関する話を盛り込んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は2カ月に1度開催し、利用者の状況、日々の活動内容、外部評価の結果を報告し、参加者からの意見をサービスの質の向上につなげるよう努めている。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営上分からないことや疑問点など相談し、スムーズな運営につながるよう取り組んでいる。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中施錠せず、自由に出入りできるようにしている。利用者が外出した場合は出来るだけ気持ちよく送り出し一緒に行動している。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃より言葉かけにも注意を払い、不適切なケアをした時は、話し合いをしている。また、職員同士うまくコミュニケーションをとる事により、ストレスを抱えないように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し、制度について勉強する機会を設けたが、活用するまでには至っていない。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書および契約書により、十分説明を行い、理解していただいた上で契約している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族の面会時、職員に気軽に話が出来るよう雰囲気づくりに留意し、声かけする機会を多く持つようにしている。意見や要望があった場合は、話し合いを行い運営に反映させている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とのコミュニケーションを図り、意見を聞く機会を多く持っている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得に向けた支援を行っている。また、管理者や職員の努力や実績を把握し、やりがいや向上心をもてる職場環境作りに努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員の育成のため、定期的に機会を設け参加を促し研修できる体制を作っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホーム連絡協議会に所属し、研修会や勉強会、ポータリング大会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	傾聴する姿勢をもち、話しやすい環境をつくり、ゆっくり聴き、本人の思いや不安を受け止めるようにしている。		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	ご家族の思いをゆっくり十分に聞き、共感・共有することにより、信頼関係を築けるよう努めている。		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	ご家族と十分に話し合い、それぞれの利用者にあったサービスの見極めをし、可能な限り柔軟な対応を行う。		
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	人生の先輩として、料理・生け花・漬物の漬付け方・編み物などを教えてもらう場を持っている。職員の元気がない時は励まして下さり、時には相談にのってもらったりする。		
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	家族の面会時には利用者の日常の様子や出来事、気づきを伝え、常に情報を共有している。		
20	(8)	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	電話連絡したり、面会の際、気兼ねなく出向いてもらえるよう声がけしている。2ヶ月に1度馴染みの美容師さんが訪問美容に来られる。		
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	利用者の性格を良く理解し、相性を見ながら席の配置を工夫したり、レクリエーション・料理作り等職員が間に入り利用者同士の関係がうまくいこう努めている。		
22		<p>関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	他施設に移られた場合、アセスメントや介護サマリー等を渡し、情報交換を行い、職員が機会を作り訪問に行くなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのかかわりを多く持つことで、そのかたの思いを言葉や表情でくみとり、希望意向の把握に努めている。		
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人からの話やご家族からの情報を収集し、把握に努めている。センター方式を取り入れた情報シートで把握できるようにし、職員で共有している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを理解し、出来ることに注目し、その人の全体の把握に努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間で常に情報を共有し、本人、ご家族と話し合い、介護計画に反映させている。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別日誌に記録し、申し送りや伝言ノートにより情報を早目に共有し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況に応じて通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議に民生委員に参加してもらい、意見交換する機会を設けている。また、小学校の運動会、学習発表会に参加している。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週に1回往診があり、状況を把握してもらっており、緊急時にも対応できる体制をとっている。往診以外でもリハビリや外来といった医療機関を利用し支援している。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師、訪問看護師と健康管理について相談や情報提供を行い、適切な受診、看護を受けられるよう支援している。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療できるよう、利用者の情報を報告し時間を見つけ職員が見舞うようにしている。病院の医療連携室と連絡を密にし、早期退院できるようアプローチしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化終末期に向けた方針については、入所時に説明している。主治医、訪問看護、ご家族と十分話し合いながら取り組んでいる。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、実施している。AED救命講習会に参加している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団と連携を図り避難訓練を行っている。非常時の備品についても少しずつ準備している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩に対する礼儀を忘れないよう心がけている。声のトーン、大きさに配慮し、特に排泄時の言葉かけには注意を払っている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた声かけを行い、思いや希望を表せるよう、また意思表示が出来ない場合は、表情や反応を注意深く観察し、自己決定が出来る場面作りに努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、利用者の体調、感情を考慮しながら、出来る限りその方のペースに合わせて対応し支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に美容師さんに来訪してもらい、好みの髪型にカットしてもらっている。整容の乱れ・汚れ等に対しさりげなくカバーしている。買い物時、自分で洋服を選んだり、化粧品を購入するなど個人の要望に応じている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	皮むき、野菜きざみ、料理の盛り付け、後片付け、茶碗洗い、拭き等利用者と一緒に行っている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスの良い食事を摂ってもらい、食事摂取量を記録している。個々に合わせ、刻んだり、とろみをつけたり工夫している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。歯科との連携もあり口腔内の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表をつけ、それぞれの排泄パターンを把握し、さりげなく声かけし支援している。表情などのサインを見逃さないよう努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、水分補給をこまめに行っている。散歩や体操など体を動かしてもらい自然排便が出来るよう取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は利用者のタイミングに合わせて、ゆっくり入ってもらっている。曜日は決まっているが希望があればいつでも入浴出来る。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動を促し、生活リズムを整え、夜間は良く眠れるように支援している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方せんをケースに整理し、職員が内容を把握できるようにしている。職員は薬の本で薬について理解している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴や趣味を良く把握し、その人の能力に応じた役割を決め、自信や喜びを感じてもらえるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外へ散歩したり、ドライブや買い物へ出かけ、気分転換を行っている。月に1回は昼食も兼ね、遠出の外出(花見、買い物)をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の能力や希望に応じてお金を所持してもらい、買い物時、本人が支払っている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、電話や手紙が出せるよう支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の目に止まる位置には季節の花を飾り、季節行事に関連した物を一緒に飾るなど、季節の変化を楽しめるようにしている。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	デッキでは、ゆっくり海や山を眺めることが出来る。ベンチや椅子、縁側が多くあり、思い思いにくつろげるようになっている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、道具、仏壇、飾り物などを持ってきてもらっている。居室には季節の花を飾っている。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体機能の変化に合わせて、その都度応じている。手すりの設置、ポータブルの設置など。		